

研究力把握勉強会 2月8日

A班、議論のまとめ

### 【研究成果の把握】

それぞれの課題：

- ・大学で運用している業績データベースに、教員が入力してくれない。
- ・データベース入力以外の方法（紙で収集）でも集まりが悪い。
- ・データベースを量的に（入力負担）／質的に（正確性）充実させるよい方法はないか。

それらへの解決策として：

- ・教員が入力してくれるとは思わず、別の方法で業績データを集める。  
→ データを買う。事務局でもっているデータは、事務局で入れる。
- ・文系など1年当たり業績件数が少ない分野なら、エクセルによる管理でもよいかもかもしれない。
- ・通常行う研究活動のプロセスの途中で、データが蓄積できる仕組みがあるとよいのではないか。たとえば、研究プロジェクトや外部資金獲得の申請書を作成するタイミングで研究業績を学内データベースに蓄積できる、など。

### 【研究マネジメント】

それぞれの課題：

- ・外部資金獲得の支援をしたいが、科研費採択率の低下に悩んでいる
- ・優れた研究を計画段階から発掘したい

それらへの解決策として：

- ・科研費以外の外部資金を獲得している教員は科研費への応募モチベーションは低いと思われるので、そういう教員は対象外というのも一つの判断。
- ・科研費獲得支援には教員のタイプ別アプローチが有効と思われる。毎年継続的にとれている／とぎれとぎれ／全く取れていない、に教員を分類してはどうか。
- ・領域横断型、異分野交流、ボトムからのネットワーキングが、優れた研究を見出すためには有効だが、それがうまくいっている大学はまだ少ない。

### 【国立大学法人評価の研究業績説明書の作成について】

それぞれの課題：

- ・部局が出してきたSS/S候補が主張するほど優れていない時に、どうやって取り下げさせるか。
- ・SS/Sの判断理由がよくないことを誰が判断し、どうやって直してもらうか。
- ・業績が優れていることの根拠に、第三者評価、外部評価委員会の意見を用いることは、適切か。

- ・学会の優秀論文賞受賞というのはSの根拠となりうるのか。
- ・SS/S候補となる業績を、どうやって発掘してくるか。
- ・科研費の分野名にもないような学際分野の業績は、どのように判断したらよいか。
- ・業績が先端的な研究分野であることを、どうやって示せばよいか。
- ・インパクトファクター以外に、優れた業績であることの判断理由・根拠となりそうなものはあるか。
- ・SS、Sの業績がそもそも少ない場合にどうすればよいか。

それらへの解決策として：

- ・SS/S候補の採択／却下や、判断理由のチェック・書き直しの指示は、大学執行部が手分けして／執行部経験のある教授／学内の専門分野別委員会／評価室室員が行っている（または行う予定）。事務職員から書き直しの指示はしづらい。
- ・評価者は細目単位とのことではあるが、ちがう専門分野の人が読んでも分かるような記述にするほうがよい。そういう記述のものは第1期の時も通りやすいようであった（大学側の経験から）。
- ・学会賞については、何千人規模の学会で何名受賞するものである等の表現で賞の価値は説明できる。
- ・第1期でSSと判断された業績のうち1/3は、何らかの受賞が（複数書かれた）根拠の一つとなっていたそうである。
- ・ニッチな研究分野であっても、その分野で一番のジャーナルというのがあるはずなので、そこに掲載されたことは優れた業績であることを示す一つの根拠となりうるだろう。また、ジャーナルの特集号などでは先端的な研究テーマを扱うことがあり、これに掲載されたかどうかや、萌芽的な研究に与えられる外部資金獲得状況なども根拠として使えるかもしれない。
- ・大学が独自に実施する外部評価の委員が認めた業績は、それをSS/Sの候補に選定する際のふるいにするのはよいが、それだけでSS/S業績であることの判断理由にするには、外から外部評価の妥当性が確認できないので、難しい。
- ・イギリスのREFでは、優れた研究業績リストが妥当かどうかを、他大学の教員に送って点検してもらうということをした大学もあった。これは評価結果が予算に反映されるためであり、コストベネフィットの観点からすれば妥当なのかもしれない。
- ・SS、Sの業績が少ない場合には、評価者から評価能力に疑義が出される可能性もある。ただし、それを過度に恐れて出さずに後悔するよりは、出しておくのも大学としてはありではないか（学内的なトラブルも減る？）